

## 復活節第四主日

2010.4.25.

(ヨハネ 10: 27-30)

今日は復活節の第四主日です。毎年、今日の復活節の第四主日のミサではヨハネ福音書の10章に記されている、イエスが語られた、羊飼いとその羊たちのたとえの箇所が朗読されるように定められています。聖書を手にとって、今日の福音の前後を読み直してみると、ヨハネ福音書の10章の一連のおことばは、イエスがまだ十字架につけられる前に、イエスを認めようとしないうダヤの人々に語られたおことばであることが分かります。けれども、ヨハネ福音書を最後まで読み通すと、あの時、誰も理解できず、受け入れようとはしなかったイエスのこれらのおことばは、イエスの十字架の死と復活の意味を解き明かすおことばであったことが分かるはずです。イエスがご自分の死をどのようなものとして受け止めておられたかが、ここに語られていることから分かるはずです。今日の福音の箇所に先立つ10章の11節では「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のためにいのちを捨てる」と語られており、さらにその直前には、「わたしが来たのは、羊がいのちを受け取るため、しかも豊かに受けるためである」と語られています。イエスはご自分の死を羊飼いが羊たちのためにそのいのちを投げ出すことと受け止めておられたのです。それが父なる神からご自分に託された使命であると受け止めておられたのです。ヨハネ福音書10章のイエスのおことばは、ルカ福音書の15章に語られている、迷い出た一匹の羊を、全てを忘れて探し歩く羊飼いの話を思い出させるかもしれません。そこにおいても、その迷える羊を見つけ出した羊飼いの喜びは天に通じる喜びであるとイエスは語られたのでした。父なる神にとって、全ての人、羊飼いにあってその羊たちがそうであるように、決して失われてはならない、かけがえのない者たちです。イエスはこの神の想いをわたしたちの世界に告げるために、その神の想いを、身をもって示すために、父なる神から遣わされたのです。

イエス・キリストの十字架の死と復活の過ぎ越しを記念し祝った復活祭に続くこの時期、私たちは、イエス・キリストの十字架の死と復活が私たちにとってどのような意味を持つ出来事であるのかということの思い巡らすよう、復活節の教会の典礼によって招かれています。

「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける」という今日の福音の最初のおことばは、あの時、イエスが何を言っておられるのか理解出来なかったユダヤの人々ではなく、イエスの十字架の死をイエスが言われたように理解し、信じた者たちのために語られているのです。イエスのあの十字架の死は、自分たちのためにイ

イエスがそのいのちを与え尽くしてくださるためのものであったと受け止めることができた者たちにとってのみ、羊のためにいのちを捨てる羊飼いの死であることが理解できるのです。そのような人々にとって、「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のためにいのちを捨てる」とのおことばは、十字架の上から呼びかけておられるイエスのお声として聞こえてくるはずです。十字架の上から招くイエスのお声をそのように受け止めることが出来た人々は、自分たちが良い羊飼いとしてそのいのちを与えてくださるイエスの声に従う羊たちであると受け止めることが出来るはずです。

私たちは洗礼を受けることによって、イエス・キリストを信じる者たちとされ、イエスとのこのような関係に招き入れていただいたのです。「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のためにいのちを捨てる」とのおことばを、十字架の上に死ぬことによって、この自分に呼びかけられているイエスのおことばとして聞く者とされたのです。「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける」との今日の福音のおことばは、そのようなことを言っておられるのです。

十字架の上から呼びかける良い羊飼いとしてのイエスのお声を聴き分けることが出来た羊たちにイエスは何を与え、その羊たちをどこに導いてくださるのでしょうか。「わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う」。羊飼いがその羊の一匹一匹を知っているように、私たちが信じるイエス・キリストは、私たちが信じる先に、私たちを知っていてくださるのです。私たちがその後に着いて行くことができるように、私たちを導いていてくださるのです。そのイエスは私たちをどこに導いてくださるのでしょうか。「わたしは彼らに永遠のいのちを与える」。今や復活の栄光のいのち中におられるイエス・キリストは彼に従う者たちをその永遠の復活のいのちに導いてくださるのです。これら全ては私たちが洗礼を受けることによって受け入れた私たちのカトリック信者としての信仰が、私たちのもたらしたものです。そのことへの感謝のうちに、今日の福音をあらためて味わい、私たちのためにそのいのちを与えつくしてくださった、良い羊飼いであるイエスのみ後に着いて行く決意を新たにしたいと思います。

日々の耐え難い労苦と悩みが私たちを打ちのめそうとする時、心を奮い立たせて、典礼聖歌 123 番の詩篇の歌を歌うことが出来たらと思います。

主はわれらの牧者 わたしは乏しいことがない。

神はわたしを緑の牧場に伏させ、憩いの水辺に伴われる。

神はわたしを生き返らせ、慈しみによって正しい道に導かれる。

たとえ死の陰の谷を歩んでも、わたしは災いを恐れない。

あなたがわたしとともにおられ、その鞭と杖はわたしを守る。

旧約の神の民がその苦難の歴史を通して歌いつないだ、この神への信頼の歌を

私たちも歌い続けたいと思います。そして、この私たちの苦難の中からの信頼の歌に応じて、私たちの牧者である主が、今日も私たちに呼びかけておられるおことばとして、今日の福音の最後のおことばを心に留めたいと思います。

「わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。わたしは彼らに永遠のいのちを与える。彼らは決して滅びず、誰も彼らをわたしの手から奪うことは出来ない。わたしの父がわたしにくださったこれらの者たちは、全てのものより偉大であり（貴重であって）、誰も父の手から奪うことは出来ない。（これらの者たちへの愛において）わたしと父とは一体なのだ。」

イエス・キリストの十字架の死と復活を通して、私たちを「緑の牧場」、「憩いの水辺」に導く、良い羊飼ひ、真の牧者としてご自分をお示しくくださった神の愛を信じ、それによって生きる恵みを願って、今日のミサを感謝のうちにおささげたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高